

# 【スナイプ級】の最も一般的な規則 42 違反

バージョン 1.1 (2018 年)

これは、ジャッジとセーラーのためのガイドであり、World Sailing の規則 42 の文書と、ワールドクラスのスナイプセーラーとジャッジの経験に基づいて作成されている。

## 原則:

ジャッジはセーラーに対して疑わしきは罰せず、であるが、セーラーが規則 42 に違反していると確信した場合、規則を守っているセーラーを保護するために行動しなければならない。

## 規則 42 に影響のあるクラス規則: なし

## クラス特有のテクニックと違反:

スナイプでは規則 42 に関する問題はあまりない。フラットでチェーンなハルのため、非常に安定しており、プレーニングしやすい。ラダーはとても小さく、スカリングにはあまり効果的ではない。比較的長いブームは、規則で認められている 1 回のパンプでサーフィングが可能である。これらの特徴を考慮すると、スナイプ級の規則 42 条違反はたいてい明らかで、また見つけやすい。

## 【スタートとアップウインド】

### スタート

スナイプ級では、スカリングは余り問題とはならない。しかし、軽風時にスピードを出すためにクローズホールドのコースを超えて更にスカルすることがある。また、軽風時には、スタート後の一回の大きなロールやロックキングに注意が必要である。

### 1. スタート後のロックキング

#### 許される行動:

- 艇を明らかに推進させていない 1 回のロール

#### 禁止される行動:

- 艇を明らかに推進させる 1 回のロール - 基本 4
- 艇を繰り返しローリングさせること - 42.2(b)(1)

#### 証拠の収集:

- 競技者が、艇のロールを引き起こしているか?
- 1 回のロールは、艇を明らかに推進させているか?
- ローリングは 2 回以上 繰り返されているか?

## アップウインドでの帆走

アップウインドで最も一般的な違反行為はボディー・パンピングである。通常、スタートラインを離れたときや、他艇がリー・バウに接近してタックをしたときに見られる。通常、ボディー・パンピングでメインセールのフリックを引き起こすことは難しいが、7-8 ノットのコンディションで風上に向かうビートでは起こりうる問題である。また、アップウインドでウーチングを見かけることがある。これはクルーがヘルムスマンに隠れて、かつリーチが動かないので、 Jury にとっては非常にわかりにくい。

## 2. スタートラインでのスカリング

スナイプのラダーはとても小さく、ティラーも長いので、スカリングにはあまり効果的ではない。しかし、非常に弱い風とフラットな海面では、風下に流されないようにスタートラインの位置を維持するためにラダーを使うことはある。規則 42.3(d)の例外が適用される場合、ヘルムスマンは艇を方向転換させるために力強く動かすことが必要となることもある。

### 許される行動:

- 艇のコースがクローズホールドより風上であり、明らかにクローズホールドのコースへの方向転換をしている場合なら、クローズホールド・コースまでは、艇が速度を増したとしても、繰り返される力強い舵の動きは許される。艇は、どちらのタックのクローズホールド・コースまで方向転換するためにスカルしても良い。- スカル 1

### 禁止される行動:

- 艇がある方向にスカリングした後、最初のスカリングを打ち消すように継続するスカリング動作は、禁止される。

## 3. ボディー・パンプ

### 許される行動:

- 波に合わせ艇のトリムを変えるための身体の前後の動き(トルキング) - ウーチ 1

### 禁止される行動:

- 身体の上下や艇の左右方向への動き、または上半身の過度なトルキングにより、リーチのフリックを繰り返し引き起こすボディー・パンピング - パンプ 6

### 証拠の収集:

- 波があるか？
- セーラーの身体の動きは波に合っているか？
- セーラーの身体の動きはリーチのフリックを引き起こしているか？
- フリックとセーラーの身体の動きは関連付けられるか？
- フリックは繰り返されているか？
- リーチのフリックは、波により起きていないか？
- 他艇と比較してどのように見えるか？

#### 4. タッキングのテクニック

ロール・タックは、スナイブ級では有効なテクニックである。しかしながら、大きく目立つロール・タックは原則の違反となり、それは軽風下で起こりやすい。セーラーはタック中に力強く身体を動かす。

##### 許される行動:

- タックの間の艇の操舵を容易にするためにローリングを大きくして、タックを完了した時にタック直前と同じスピードになるような身体の動き-ロック 8

##### 禁止される行動:

- 艇のスピードがタック完了直後に増加するように、タックの間に大きなローリングをさせる身体の動き

##### 証拠の収集

- 各々のタックは艇を増速させたか？
- セーラーの身体の動きは艇を増速させたか？
- タック後の増速に続き、突然明らかに減速したか？

#### 【ダウンウィンドとリーチング】

##### 1. パンピング

パンピングは風が強くなると、特にメインシートをダイレクトに扱う艇ではとても有効なテクニックである。軽風下では、最適なトリムを得るために繰り返しセイルをトリムする必要があるかもしれない。

##### 許される行動:

- その時の状況に合わせて、艇をトリムするためのセールの引き込み-パンプ 2
- サーフィングまたはプレーニングを開始するために、一波またはガスト(風の一吹き)に1回、セイルをパンプすること。ただし、艇がサーフィングと認められるためには、急に加速しながら波の前面を下るものでなければならない。-42.3(c)

##### 禁止される行動:

- セイルをファンニングさせるための引き込み-パンプ 1
- サーフィング中またはプレーニング中のパンピング-パンプ 12
- プレーニングまたはサーフィングしようとして失敗を繰り返す場合、その艇はイエロー・ライト・エリアにある。連続で三度の失敗は禁止される。-パンプ 8

##### 証拠の収集:

- サーフィングまたはプレーニングできる状況か？
- 一波またはガスト(風の一吹き)につき1回のパンプは、サーフィングまたはプレーニングを開始しているか？
- 艇は、サーフィング中またはプレーニング中にパンプしているか？
- 引き込みと緩めは風の振れ、ガスト、または波に対応しているか？

- 繰り返しの引き込みと緩めで、セールをファンニングしているか？

## 2. ロッキング

ヘルムスマンは合法的なパンプをしながら身体を後ろに傾けることで、パンプとローリングを組み合わせることがある。一回の動作で繰り返しのローリングを十分に引き起こすことができる。規則 42.3(c)の例外には、一波またはガスト(風の一吹き)に1回のパンプが認められているが、一波またはガストごとの1回のロールは認められていない。風上や風下へのコース変更なしに艇をロッキングさせることは、よくある規則 42 の違反である。

### 許される行動:

- 波に合わせて、ベアリング・アウェイを促進するために風上側へヒールさせることと、風上に向けてることを促進するために風下側にヒールさせること。

### 禁止される行動:

- 特に風上へロールさせた後、ロールが完了する前にロールを打ち消すために身体を内側に動かすことで、艇が繰り返しローリングするような一回の身体の動き-ロック 5
- 合法的なパンプを行いながら、身体を後傾させロッキングを行うこと。

### 証拠の収集:

- 競技者は艇のロールを引き起こしているか？
- ローリングは繰り返されているか？
- 一回の身体の動きが、艇の繰り返しのローリングを引き起こしているか？

## 3. ウーチング

サーフィングを開始するためには、クルーを前方に移動させる必要がある。スナイプがサーフィングしているときは、すぐに波を乗り越えるので、バウが潜らないようにクルーを素早く後方に移動させる必要がある。ウーチングを判断するのに最適な位置はスナイプの横である、これにより身体を急速に前方へ動かして止めたのか、波と連動しているのかを判別しやすい。ダウンウインドではクルーとヘルムスマンが反対側にいるので、この違反が判断しやすい。

### 許される行動:

- 波のある状況で、波に合わせてデッキ上を前進・後退すること - ウーチ 1

### 禁止される行動:

- デッキ上で身体を急速に前方へ動かして、急に止まること。- 42.2(c)

### 証拠の収集:

- 身体の動きは波と合っているか？
- 身体の前方への動きが急に止まっているか？

\* ご不明な点があれば、下記までお問い合わせください。

Ricardo Lobato - Ricardo@lobato.biz